

## 地震防災対策 2

### トリアージシステムの確立

発表者用原稿

## 地震防災対策2「トリアージシステムの確立」

### トリアージシステムの確立

#### ① トリアージシステム

より多くの患者さんを受け入れ、多くの人々の命を救う為には、トリアージが必要になります。現状を把握し、より早急に治療ができるようにシステムの確立が大切です。多数の震災患者の来院に備え、患者を受け入れるスペースを確保する必要があります。

- ①-1 入院患者の数や一時帰宅している患者の人数を把握します。
- ①-2 患者の安全を確認し、災害対策本部（準備要員）に報告します。
- ①-3 軽症・病状安定の患者は、移動や一時帰宅を依頼します。  
（主治医が不在で判断できない場合も考えられますので、あらかじめ移動・一時帰宅可能患者リストを作成しておく。）
- ①-4 一時帰宅を依頼する場合は、患者の自宅が被災、又はライフラインが停止していることもありますので、必ず患者の家族と連絡を取り、家族の迎えが可能な場合のみに限定します。  
（家族の連絡者名簿を作成しておきましょう）

#### ① トリアージシステム

より多くの患者さんを受け入れ、多くの人々の命を救う為には、トリアージが必要になります。現状を把握し、より早急に治療ができるようにシステムの確立が大切です。

多数の震災患者の来院に備え、患者を受け入れるスペースを確保する必要があります。

- ①-1 入院患者の数や一時帰宅している患者の人数を把握します。
- ①-2 患者の安全を確認し、災害対策本部（準備要員）に報告します。
- ①-3 軽症・病状安定の患者は、移動や一時帰宅を依頼します。  
（主治医が不在で判断できない場合も考えられますので、あらかじめ移動・一時帰宅可能患者リストを作成しておきましょう。）
- ①-4 一時帰宅を依頼する場合は、患者の自宅が被災、又はライフラインが停止していることもありますので、必ず患者の家族と連絡を取り、家族の迎えが可能な場合のみに限定します。（家族の連絡者名簿を作成しておきましょう）

#### ① トリアージシステム

- ①-5 一時帰宅を患者へ依頼する場合は、交通事情等により、数日間は通院できないことに備え、医薬品の処方や提供を正確に行ってください。他の医療機関にかかる場合に備え、患者情報（病名、症状、投薬内容など）を必ず提供します。
- ①-6 一時帰宅を患者に依頼した場合は、病状が急変した場合に備えて、災害患者とは別に再来院優先窓口を必ず設置し、帰宅する患者・家族に説明します。
- ①-7 災害後は、自宅や家族の様子が気になりになり、帰宅を希望する患者も少ないと思われる。患者の病状や災害後の状況に合わせて、患者が一時帰宅を希望した場合は対応して下さい。患者の希望で一時帰宅する場合も、⑤⑥を行います。
- ①-8 会議室、食堂等の空きスペースに簡易ベッド等を入れ、通常の定員を超える収容能力を確保します。
- ①-9 新たに設置した仮設病室は、治療用機器を用意できるように準備しておきます。

- ①-5 一時帰宅を患者へ依頼する場合は、交通事情等により、数日間は通院できないことに備え、医薬品の処方や提供を正確に行ってください。他の医療機関にかかる場合に備え、患者情報（病名、症状、投薬内容など）を必ず提供します。
- ①-6 一時帰宅を患者に依頼した場合は、病状が急変した場合に備えて、災害患者とは別に再来院優先窓口を必ず設置し、帰宅する患者・家族に説明します。
- ①-7 災害後は、自宅や家族の様子が気になりになり、帰宅を希望する患者も少ないと思われる。  
患者の病状や災害後の状況に合わせて、患者が一時帰宅を希望した場合は対応して下さい。患者の希望で一時帰宅する場合も、⑤⑥を行います。
- ①-8 会議室、食堂等の空きスペースに簡易ベッド等を入れ、通常の定員を超える収容能力を確保します。
- ①-9 新たに設置した仮設病室は、治療用機器を用意できるように準備しておきます。

## ② 病院内のゾーン区分と職員配置計画

地震災害の場合、外来患者数が予想できないだけでなく、病院内部も混乱が生じていることが考えられます。

同時に多数発生した負傷者を少しでも多数受け入れるために、被災地から救急隊員によって搬送されてくる患者、家族が連れてくる患者、自力で病院を訪れる患者など、どんな方法で来院した場合にも、全員にトリアージを実施します。

スムーズなトリアージと治療のためには、あらかじめ、病院内のゾーン区分と職員配置計画を立てます。

・混乱を防止するため、人の流れ（動線）は、できるだけ1方向にし、スムーズに流れるように配置します。

・入口（受付）と出口は別に設けます。

・事前に、短時間で増床可能ベッド数を病棟や部屋ごとに把握します。

## ② 病院内のゾーン区分と職員配置計画

地震災害の場合、外来患者数が予想できないだけでなく、病院内部も混乱が生じていることが考えられます。

同時に多数発生した負傷者を少しでも多数受け入れるために、被災地から救急隊員によって搬送されてくる患者、家族が連れてくる患者、自力で病院を訪れる患者など、どんな方法で来院した場合にも、全員にトリアージを実施します。

スムーズなトリアージと治療のためには、あらかじめ、病院内のゾーン区分と職員配置計画を立てます。

・混乱を防止するため、人の流れ（動線）は、できるだけ1方向にし、スムーズに流れるように配置します。

・入口（受付）と出口は別に設けます。

・事前に、短時間で増床可能ベッド数を病棟や部屋ごとに把握します。

### ②-1 受付ゾーン（病院内の平静を保つ為にも、入口はできるだけ1カ所にします）

・負傷者や付添いで混乱するので関係のない人の入場を制限。

・その場で、トリアージを行います。（病状により色分けをする）

・気候条件が良い場合は、屋外にテントを張って対応します。

・トリアージの結果により、患者を移動します。

・家族や知人が消息を尋ねに来院することに備え、来院患者の氏名、入院か帰宅か、転送の場合は転送先病院名等を、受付脇などの目立つ場所に掲示します。

### ②-1 受付ゾーン（病院内の平静を保つ為にも、入口はできるだけ1カ所にします）

・負傷者や付添いで混乱するので関係のない人の入場を制限。

・その場で、トリアージを行います。（病状により色分けをする）

・気候条件が良い場合は、屋外にテントを張って対応します。

・トリアージの結果により、患者を移動します。

・家族や知人が消息を尋ねに来院することに備え、来院患者の氏名、入院か帰宅か、転送の場合は転送先病院名等を、受付脇などの目立つ場所に掲示します。

②-2 診療ゾーン（混乱防止のため、付添い人は診療室外で待ってもらいます）

第1順位 重症患者

- ・直ちに処置の必要な患者です。入口から最も近い場所を診療にあてます。
- ・場合によっては、災害医療拠点病院へ転送が必要になることが予想できるので、低層階で、転送用出口に近い場所にします。

第2順位 中等症患者

- ・入院が必要ではあるが、一刻を争うほどの危険はない患者です。
- ・重症患者より遠い場所を診療にあてます。

第3順位 軽症患者

- ・入院不要と判断された患者です。
- ・出口に近い場所を診療にあてます。
- ・気象条件によっては、屋外テントを使用することも考えます。

②-2 診療ゾーン（混乱防止のため、付添い人は診療室外で待ってもらいます）

第1順位 重症患者

- ・直ちに処置の必要な患者です。入口から最も近い場所を診療にあてます。
- ・場合によっては、災害医療拠点病院へ転送が必要になることが予想できるので、低層階で、転送用出口に近い場所にします。

第2順位 中等症患者

- ・入院が必要ではあるが、一刻を争うほどの危険はない患者です。
- ・重症患者より遠い場所を診療にあてます。

第3順位 軽症患者

- ・入院不要と判断された患者です。
- ・出口に近い場所を診療にあてます。
- ・気象条件によっては、屋外テントを使用することも考えます。

②-3 入院ゾーン（診療後、入院ゾーンへ患者を移送します）

第1順位 重症患者

- ・災害医療拠点病院へ転送が必要となることもあると予想し、低層階、転送用出口に近い場所に入院ゾーンを設置します。

第2順位 中等症患者

- ・重症患者より遠い場所に入院ゾーンを設置します。

②-3 入院ゾーン（診療後、入院ゾーンへ患者を移送します）

第1順位 重症患者

- ・災害医療拠点病院へ転送が必要となることもあると予想し、低層階、転送用出口に近い場所に入院ゾーンを設置します。

第2順位 中等症患者

- ・重症患者より遠い場所に入院ゾーンを設置します。